

第六十次式年造替

春日大社

正遷宮

奉祝行事

祝御造替

春日大社 第六十次式年造替

松井

平成二十八年十月・十一月



今日あることへの 感謝を伝える式年造替

春日大社では、一年三六五日、二千二百回以上のお祭りが奉仕されています。そうした中での至高最上の祭典奉仕が「式年造替」です。

昨年二月、神さまは仮殿である「移殿」へ一時お遷り頂き、御本殿の修理が進められて参りました。

そしていよいよ本年十一月、美しくご修繕成った御本殿にお還り頂きます。

神護景雲二年（七六八）の創建以来、一千二百年にわたって、御殿の建て替へと御神宝の新調が二十年に一度、繰り返してご奉仕され続けてきました。

造り替え、ご修繕を行うことにより、神さまのお住まいを新たにし、神さまの尊さを認識し、更に次世代へとご存在を伝え継ぐ行事であると共に入造りの叡智でもあります。

常日頃のお恵みに感謝し、真心をつくしてのご奉仕を行い、そのお恵みをありがたく拝し、ただただ感謝申し上げます。これが神々への祈り・御造替の原点です。

第六十次式年造替 諸儀式

平成二十七年

木作始式	三月 一日
移殿御装束並清祓之儀	二十五日
六面神鏡奉遷之儀	二十六日
外遷宮（仮殿遷座祭）	二十七日
御慶之舞楽	二十八日

※平成二十七年の諸儀式は滞りなく執行されました。

平成二十八年

本殿立柱上棟祭	十月二十八日
立榊式	十一月 一日
神宝檢知之儀	三日
御殿奉磨之儀	三日
御神宝清祓之儀	四日
殿内御鋸之儀	四日
六面神鏡奉下之儀	四日
御殿清祓之儀	五日
具足洗之儀	五日
正遷宮（本殿遷座祭）	六日
奉幣祭	七日
後宴之舞楽	七日
奉祝祭・奉祝行事	八日（

※秘儀により拝観できない神事があります。

平成二十八年十月・十一月
しょうせんぐう

正遷宮 奉祝行事

正遷宮の前後に行われる奉祝行事をご紹介します。
二十年に一度のこの機会にぜひお参り下さい。

十月一日(土)～十一月二十七日(日)

春日大社国宝殿 新装開館記念展

春日大社の国宝

―千年の秘宝と
珠玉の甲冑刀剣を一堂に―

御造替を記念し、宝物殿を増改築、内外装を一新し館名を「春日大社国宝殿」と改めました。国宝殿は、王朝の美術工芸、日本を代表する甲冑や刀剣など国宝三五二点、重要文化財九七一点を中心とする名宝を展示公開する施設です。

開館にあたり王朝の美術工芸、日本を代表する甲冑や刀剣など珠玉の国宝・重要文化財約五十点を厳選して公開いたします。新しい空間で、日本を代表する名宝の魅力を存分にお楽しみください。



主な展示品 (会期中一部展示替を予定)

国宝 金地螺鈿毛抜形太刀 (平安時代)

国宝 蒔絵箏 (平安時代)

国宝 赤糸威大鎧(竹虎雀飾) (鎌倉時代)

◎ 開館時間 十時～十七時 (入館十六時半迄)

◎ 入館料 一般五〇〇円、大学生・高校生三〇〇円

◎ 中学生・小学生二〇〇円

団体一般(二十名以上) 四〇〇円

十月六日(木)～二十三日(日)

二十年に一度、今このときかぎり

お砂持ち行事

非公開 国宝御本殿特別拝観

九時～十六時三十分

※九日、十一日、二十一日の午前中は神事により実施いたしません。
御本殿の修理が完了し神様がお還りになるまでのこの間、本殿前に敷き詰めるお砂を運ぶ、江戸時代以来の行事です。一位橋を越えて内院までお入りになり、美しくなった国宝御本殿を間近に拝観できるのは、二十年に一度のこの機会のみとなります。

◎ 参加費 二、〇〇〇円 (記念品付)

※事前予約不要



写真 桑原英文

十月十六日(日)

万葉蹴鞠

〈奈良21世紀フォーラム〉

午前十時三十分～林檎の庭
十二時二十分～飛火野



飛火野での競技風景

皇極三年(六四四)、飛鳥寺で中大兄皇子が蹴鞠に興じていた際に沓が脱げ、それを大臣鎌足が拾ったことで二人は出会い、大化の改新へと繋がっていったといわれています。奈良21世紀フォーラムでは、これを日本サッカーの起源と考え、「万葉蹴鞠」として推察復元し、その普及活動をされています。

奈良時代、多くの歌のテーマとなった御蓋山西麓の春日野、飛火野。日本の歴史を支えた藤原氏の祖神を祀る春日大社で、氏祖ゆかりの蹴鞠を、第六十次式年造替奉祝行事として奉納されます。

十一月七日(月)

二十年前ぶりに絢爛豪華な

「太平楽」を奉納

ごえんのぶがく

後宴之舞楽

第一部 午後二時〜五時

第二部 午後四時三十分〜七時三十分

(入替制事前解説時間含む)

林檎の庭

奉納曲目

第一部 集会乱声、振針三節、萬歳楽

延喜楽、賀殿、地久

第二部 太平楽、狛杵、蘭陵王、納曽利

祝儀の口上、長慶子



太平楽

本殿遷座祭の翌日に古式に則り奉納されます。舞楽は、朝鮮半島や中国、シルクロードを経てインドなどから伝わった楽舞が、わが国で集成・昇華されたものです。千年以上の歴史を重ねる南都楽所によって奉納されます。

鎌倉時代に成立した絵巻(春日権現験記)にも描かれている「萬歳楽」、「賀殿」、「蘭陵王」、二十年に一度の式年造替の際にだけ舞われる「太平楽」など、御造替を奉祝するに相応しい舞楽が奉納されます。

◎ 陪観料 各部四、五〇〇円(税込・記念品付) ※九月二日より奈良市観光協会にて発売。電話〇七四二一八八六六 ※雨天時は幣殿

十一月八日(火)

百五十年前ぶりに金春流・金剛流による「弓矢立合」が実現

奉祝式能

午後二時〜林檎の庭

奉納演目

「開口」 高安勝久

「弓矢立合」 金剛永謹、金春憲和、高橋忍

「三笠風流」 茂山千五郎

仕舞「難波」 櫻間右陣

「鈴之段」 大藏彌右衛門

能「葛城」 金春安明、金春穂高

能「萩大名」 大藏彌太郎

能「春日龍神」 金剛龍謹

「弓矢立合」は、翁の小書で三人の太夫が直面で登場し相舞を舞うという特殊な演出。毎年

十一月十日(木)

大蔵流の五家すべてが勢揃い

奉祝狂言

午後二時〜林檎の庭

奉納演目

「蛭子大黒」 大藏吉次郎、大藏教義

「富士松」 山本東次郎

「素袍落し」 茂山良暢

「腰折」 茂山千作

「猿智」 善竹隆司、善竹十郎

十二月の「春日若宮おん祭」の際に奉納されています。春日大社では本来は三座、もしくは二座の立合でしたが、明治以降は金春流のみの奉仕となっていました。今回、金剛流との二座立合が百五十年前ぶりに古式に則り実現します。鎌倉時代の高僧で、京都・梅尾の高山寺を創建した明恵上人の天竺渡海の思いを、春日明神が思いとどまらせるといふ説話をとった「春日龍神」、奈良・葛城の山中を舞台にした「葛城」など、春日大社や奈良ゆかりの演目が奉納されます。



「弓矢立合」(春日若宮御祭礼絵巻物)

◎ 陪観料 四、五〇〇円(税込・記念品付) ※九月二日より奈良市観光協会にて発売。電話〇七四二一八八六六 ※雨天時は奈良春日野国際フォーラム薨 能楽ホール(会場の変更は前日午後三時に決定)

十一月十二日(金)

高野山声明

〈真言声明の会〉

正午〜林檎の庭(陪観無料)



「声明」は、仏教とともに日本に伝わった無伴奏の宗教音楽です。中世以降、伝統音楽界へ多大な影響を与え、平曲や謡曲、浄瑠璃など、今では国民によく知られる伝統音楽の基礎を作ったとされています。今日ではグレゴリオ聖歌やクルアーンなど、世界の宗教音楽の一つとして大きく脚光を浴び、宗教の枠組みを超えて共演するなど、海外でも注目されています。真言声明の会では世界遺産・高野山に伝わる南山進流の声明普及のため、積極的に公演活動をされており。

十一月十二日(土)

奈良豆比古神社

「翁舞」奉納

(翁舞保存会)

午前十時〜林檎の庭(陪観無料)



奈良市北端、京都府との県境近くの奈良阪町に鎮座する旧式内社・奈良豆比古神社に伝わる神事芸能「翁舞」の奉納です。翁舞は毎年十月八日の宵宮祭りで奉納され、古儀を伝える貴重な芸能として国の重要無形民俗文化財の認定を受けています。春日大社の神事芸能とも関わりがあるとされ、現在は氏子を中心とした翁舞保存会によって研鑽・伝承されています。春日大社での奉納は初めてとなります。

十一月十三日(日)

黒川能奉納・公演

「黒川能 下座」

奉納「式三番」

午前十時〜林檎の庭(陪観無料)

奉祝公演

午後一時三十分〜

奈良春日野国際フォーラム

公演演目

能 「野守」

狂言 「末広」

能 「大瓶狸々・乱」

解説 増田正造(武蔵野大学名誉教授)

山形県鶴岡市櫛引地区の春日神社の神事芸能「黒川能」が初めて奈良で奉納・公演されます。二百三十戸あまりの氏子によって代々伝えられてきた黒川能は五百年の歴史を有し、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

午前中に林檎の庭で「式三番」の奉納があり、午後から奉祝公演が開催され、春日大社ゆかりの能「野守」などが披露されます。



大瓶狸々

◎料金 八、〇〇〇円(税込・全席指定) ※九月二日よりセクターエイティエイトにて発売。電話〇六一六三五三―八九八八

十一月十三日(日)

皆白行山流 みかじりししおどり

三ヶ尻鹿踊奉納

(岩手県胆沢郡金ヶ崎町三ヶ尻)

午後一時〜林檎の庭(陪観無料)

鹿踊は、慶安二年(一六四九)駿河国府中の人・飛鳥川常利が富士山麓で鹿の群れ遊ぶ様を見て、天下泰平の為、諸病悪魔を払う祈りと解し、舞踊化したといわれています。皆白行山流六代目師匠万之助から文政九年(二八二六)田中屋敷卯兵衛に伝授され、三ヶ尻村日吉神社に奉納し、三ヶ尻鹿踊が始まります。以来百九十年の伝統を誇り、平成二十二年にも春日大社林檎の庭で奉納されました。

礼舞と役踊り

鹿踊は昔から礼に始まり礼に終わるとされ、礼舞が主となっています。先庭 先に庭褒め、入り込み、屋柄褒めをして踊りに入ります。中立の綴の舞、続いて群舞となり廻り切り、引き波で終わります。

後庭 入り込み

群舞での舞、ここまでは先庭とは別の踊りで廻り切り、鹿の子、引き波は先庭と同形の舞で、引波で舞納めとなります。



十一月十四日(月)

沖繩

登野城 能囃子

琉球舞踊奉納、および

大倉流華月会

連調奉納

午前十二時〜林檎の庭(陪観無料)

奈良で生まれた能楽は、十七世紀初頭に南は遠く、八重山まで伝わり大和文化として脈々と受け継がれ、十八世紀初頭には琉球舞踊の創始者玉城朝薫が能を学び組踊を完成させました。今では失われた組踊出囃子を、琉球の伝承者の皆様の参加により復元し奉納されます。この度の奉納は、野津(尚)圭子氏のご協力のもと、能楽小鼓方 大倉源次郎師の仲立ちにより実現するもので、大倉流華月会による連調も奉納されます。



琉球舞踊



登野城 能囃子

よろこびの御神気あふれる

正遷宮初まいり

十一月十二日(金)～十三日(日)

大神様が御本殿にお還りになって、はじめての週末であるこの三日間、午後一時からは特別参拝が無料で開放、夜には奉祝万燈籠で境内が彩られ、どなた様も御本殿前までお参りが叶います。

十一月十二日(金)～十三日(日)

御本殿特別参拝 無料開放

午後一時より

正遷宮を奉祝し、通常は五百円の初穂料でお入りいただいている御本殿特別参拝を無料開放いたします。一千基の釣燈籠が架けられた回廊をお歩きいただき、中門の前から御本殿にお還りになった大神様にお参りいただけます。



写真 桑原英文

十一月十二日(金)～十三日(日)

奉祝万燈籠

午後八時三十分まで

夜には、正遷宮を祝い、境内三千基の石燈籠と釣燈籠すべてに浄火を点す奉祝万燈籠を実施いたします。朱塗りの社殿が暗闇に浮かびあがり、幻想的な雰囲気になります。どなた様も無料で御本殿そばの中門前でお参りいただけます。



写真 松井良浩



写真 松井良浩

十一月十二日(金)～十三日(日)

奉祝マルシェ

午前十時～午後四時
奈良公園登大路園地(奈良県庁前)

正遷宮をお祝いで、奈良のご当地グルメや式年造替記念物の販売等を行う奉祝マルシェが開催されます。

十一月十二日(金)～十三日(日)

奉祝なら燈花会

午後六時三十分～八時三十分

表参道および飛火野

夏の奈良を彩る「なら燈花会」が、正遷宮を祝い、春日大社表参道と飛火野で、三日間特別に開催されます。



十一月十二日(金)～十三日(日)

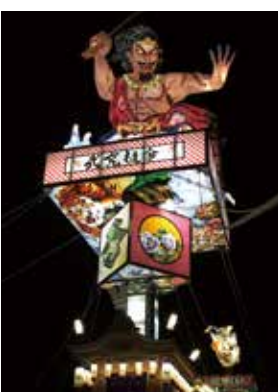
石川県珠洲市

飯田春日神社 燈籠山曳き

とろやまひ

午後八時三十分まで 飛火野

石川県珠洲市飯田町鎮座の春日神社から、高さ十六mある燈籠山が飛火野にやってきます。毎年七月二十・二十一日の「飯田の燈籠山まつり」で市内を曳きまわされる燈籠山の人形は二年に一度新調され、今年の人形は当社の御祭神でもある武甕槌命様です。



十一月十二日(金)

山下和仁ギター奉納

午後一時〜直会殿(陪観無料)



長崎市出身
の世界屈指
のギタリス
ト、山下和
仁氏による

ギター奉納。

十五歳で全国コンクール優勝、十六歳でスペイン、イタリア、パリ国際の世界三大ギターコンクールに、いずれも史上最年少優勝という快挙をなし遂げ、七十八タイトルに及ぶLP、CDを発表。ウイーンムジックフェライン大ホールやニューヨークリンカーンセンターでソロリサイタル。世界各地の国際フェスティバルに、クラシックギターの雄として毎年招待され、世界的オーケストラや他ジャンルのトップアーティストたちとも共演。

また演奏活動の傍ら、雅楽および古楽の調査・研究をかさね、その範囲は、大仏開眼式の昔にさかのぼる隣国・遠国のルーツをたどって、韓国・ヴェトナム・カンボジアにも及びます。

長崎県対馬の悠久の歴史と雄大な自然に触れ、「ながさき音楽祭」を経て、現在「旅人の琴(万葉集に対馬の桐の木でつくった琴の歌がある)プロジェクト」に携わっておられます。CD『黎明期の日本ギター曲集』で平成十一年度文化庁芸術祭大賞受賞。

十一月十二日(金)

古澤巖 ヴァイオリン奉納

午後七時〜直会殿(陪観無料)

世界を舞台に活躍されるヴァイオリニスト、古澤巖氏は、昨秋、奈良県文化会館で「春日大社第六十次式年造替記念公演 まほろばの出会い」に東儀秀樹氏、coba氏、上妻宏光氏らとともにご出演いただきました。そのご縁で、本年も奉祝万燈籠の一日目の夜、直会殿を舞台に奉納演奏いただきます。

古澤巖氏プロフィール

一九五九年生まれ。桐朋学園大学首席卒、カーチス音楽院卒。モーツァルテウム音楽院に二年滞在、修行のため世界中の巨匠の門を叩く。日本音楽コンクール第一位。八七年帰国後、大学一年の葉加瀬太郎等とバンドを結成、新しいステージ創りを始め現在に至る。最新アルバムはベルリンフィルメンバートベルリン録音を含む「CANTATAI」(HATS)。イタリアの巨匠マリノーが、古澤の為に書き下ろした曲集が美しい。



十一月十二日(土)

山口佳恵子のゆかりある 音楽人音楽奉納

〈グループみち・トステイ歌曲コンクール入賞者・奈良市国際音楽交流協議会〉

午後七時〜八時〜直会殿(陪観無料)

青少年の夢を育み、トステイ歌曲の研鑽・普及に努めている奈良在住の音楽家・山口佳恵子氏とその門下生(グループみち)を中心に、日伊国交百五十年を祝してトステイ歌曲コンクール入賞者と津軽三味線のみなさまによる音楽奉納です。春日大社での奉納は、平成七年にはじまり、平成十五年からは夏の万燈籠に欠かさず奉納されており



十一月十三日(日)

畑美枝子 ソプラノ奉納コンサート

午後七時三十分〜直会殿(陪観無料)

奉祝万燈籠三日目の夜には、畑美枝子氏を中心としたソプラノ奉納コンサートが開催されます。同氏はイタリアのパルマ国立音楽院で声楽を学び、三十年のイタリア生活中は、欧州各地で演奏会を開催され、また声楽の指導にあたられました。帰国後は、伊勢神宮、上賀茂神社、下鴨神社の式年遷宮奉納コンサート、八坂神社、春日大社、住吉大社での奉納コンサート等にご出演されています。



十一月十二日(金)〜十三日(日)

漢國神社韓園講 夜神楽奉納

〈漢國神社・豊来家玉之助・桃俣獅子舞保存会・大升獅子神楽団〉

午後七時〜二之鳥居東祓戸神社前(陪観無料)

奉祝万燈籠の三日間、祓戸神社前では、漢國神社韓園講の皆様により、夜神楽が奉納されます。平成二十六年の獅子舞奉納にはじまり、毎年二月の「なら瑠璃絵」・昨年十月の檜皮・お砂奉納千人行列など多くの機会に奉納されています。



桃俣春日神社獅子舞

漢國神社韓園講プロフィール

太神楽曲芸師豊来家玉之助が漢國神社に獅子舞奉納を始めたのがきっかけで、八年後に講が結成される。穢れを祓う鈴、邪気を祓う剣、商売繁盛家庭円満を願う舞、曲芸や予芸のおちよけ、五穀豊穣を願う地固、祭りの終わりを告げる鎮めなど総演目は二十を超え。この講に含まれる桃俣獅子舞は、奈良県御杖村桃俣地区の春日神社に伝わる神事芸能であるが、過疎化と高齢化が進み、獅子舞を舞えなくなつた為、「奈良の獅子舞を奈良の人の手で守ってもらおう」為に、漢國神社に毎年招待される。

奉祝献茶式

正遷宮奉祝行事として、表千家、裏千家、遠州流、上田宗箇流、煎茶小川流の五流派による茶道献茶式が、十一月に行われます。六十回目となる御造替の歴史で今回が初めての事です。
(武者小路千家は、本年五月十日の献茶祭を、御造替奉祝としてご奉仕頂きました。)

十一月十五日(火)

表千家 献茶式

午前中幣殿

利休がわび茶を大成して後、二代目を少庵が、利休の孫に当たる宗旦がその後を継ぎ三代目となりました。宗旦の子のうち三人が各々、表千家、裏千家、武者小路千家の三千家の始祖となり、現在までその茶を受け継ぎながら時代に即した茶の湯をも展開されてきました。表千家は利休から数えて三代目宗旦をその三男、江岑宗左が継ぎ、表千家家元となりました。現在十四代目而妙斎宗左家元が茶を継承されています。その茶は華美なものや派手なもの、余計なものを削ぎ落とした簡素簡略な精神性のわび茶の伝統を継承されています。春日大社に於きましては、毎年五月十日に行われる献茶祭で三千家輪番にてご奉仕になられています。



十一月十七日(木)

裏千家 献茶式

午前中幣殿



裏千家は利休から数えて三代目宗旦を、その四男である仙叟宗室が継ぎ、裏千家家元となりました。現在十六代目坐忘斎宗室家元が茶を継承されています。利休の茶の伝統を守るとともに、明治期以降は女学校教育の中に茶道を取り入れるなどされ、また、明治五年(一八七二)の万国博覧会にあわせ、十一代玄々斎により、外国の方々をもてなすため椅子に座って行う立礼式をも考案されました。その様に時代に合わせた国内外に於ける精力的な茶道普及活動により、茶道界全体の振興に寄与されています。

十一月十九日(土)

遠州流 献茶式

午後 中門御廊



流祖小堀遠州は茶道指南役として徳川将軍家に仕えた、江戸初期を代表する茶人にして大名です。茶の特徴を「綺麗さび」と称し、わび茶に美しさや華を融合させた品格ある茶といわれます。建築家としても名を残しており、綺麗さびの美を表現した明るく開放感のある茶室や庭も現存しています。現在十三世宗実家元が茶を継承されており、春日大社では三年に一度、献茶されています。

十一月二十七日(日)

上田宗箇流 献茶式

午前中幣殿

流祖である上田宗箇は豊臣秀吉らに仕えた武将で、千利休、古田織部に師事。その茶は、わびた茶とも華やかな茶とも異なる武将らしいものであったといわれています。武家茶の作法の特徴としてよく挙げられる袱紗を右に付けるのは、左には刀を差していた名残といわれ、柄杓の扱い方も独特で馬上での動作の名残が見られます。その他の作法も凛としていて、男性は男性らしい、女性は女性らしい作法といわれます。元和五年(一六一九)、紀州より浅野

十一月二十九日(火)

煎茶 小川流 献茶式

午前十二時 幣殿



今回、上田宗箇流としては、春日大社での初めての献茶式の奉仕となります。

毎年十一月に春日大社で行われる大和茶献茶講社の収穫感謝祭に御奉仕を頂いている小川流煎茶は江戸時代後期に京都の小川可進(一七八六〜一八五五)によって始められました。医師でもあった可進は、強い関心を実らせて煎茶家に転身。茶の真味に基づきながら、医師の経験を生かして衛生的かつ合理的な独自の煎茶法を編み出し、日本の茶葉に適した煎茶法や茶器をも創案して古くからあった煎茶の世界を一新されました。

その煎法はいたずらに形式にこだわることなく、茶の本来の真味を引き出すための必然的な手順の積み重ねから成り立っています。



十一月二十日(日)

小笠原流 流鏑馬奉納

午後一時～

参道一之鳥居から御旅所前(陪観無料)

小笠原家は、鎌倉時代から江戸時代にかけて、歴代将軍に礼法・弓術・弓馬術(流鏑馬など馬上で弓を引く)を指南してきた家で、現在、三十一世小笠原清忠氏が家督を継がれていますが、この間、一子相伝、男子直系にて流儀の継承をされております。



この度、ご奉納いただく小笠原家の流鏑馬は、一八七七年に源頼朝公の命により初代小笠原長清により考案された式法と、江戸時代に八代將軍吉宗公の命により二十代小笠原常春により考案された式法です。

流鏑馬には矢を拾う、的をかえる、記録をするなど様々な諸役があり、それぞれの動きには定めがあります。勇壮な儀式でありながら、礼法に則った厳肅なる儀式ですので、射手だけでなく諸役の動き、装束など総合的にご覧ください。

おん祭への招待

十一月二十日 正午～

春日若宮おん祭への理解を深めていただくため、毎年様々なテーマを取り上げる「おん祭への招待」。本年は正遷宮を奉祝し、大和高原の民俗芸能が一堂に会し、林檎の庭で奉納されます。引き続き、おん祭の御旅所祭で毎年奉納される「田楽」「細男」も奉納されます。

十一月二十日(日)

大和高原 神事芸能奉納

正午～ 林檎の庭



大柳生の太鼓踊り



邑地の神事芸能

奈良県東部の大和高原は、古くから春日大社とつながりが深く、なかでも神戸四ヶ郷(旧神領)といわれる奈良市柳生地区とその周辺、そして山辺郡山添村には、古くから伝わる貴重な神事芸能が残されています。これらは毎年十二月十七日に行われる春日若宮おん祭でも「松の下・民俗芸能特別公開」として奉納いただくなど、今でも春日大社と密接な繋がりがあります。

この度、第六十次式年造替を奉祝し、大和高原の貴重な神事芸能の数々をご奉納いただくことになりました。今回の奉納行事には、奈良民俗文化研究所の鹿角勲先生、奈良市文化財課の岩坂七雄先生に解説いただく予定です。

奉納団体(予定)

- ・ 柳生の神事芸能(奈良市)
- ・ 大柳生の太鼓踊り(奈良市)
- ・ 山添のおかけ踊り(山添村)
- ・ 阪原の神事芸能(奈良市)
- ・ 邑地の神事芸能(奈良市)
- ・ 狭川の神事芸能(奈良市)
- ・ 田原の祭文踊り(奈良市)
- ・ 北野の神事芸能(山添村)
- ・ 峰寺の神事芸能(山添村)
- ・ 桐山の神事芸能(山添村)
- ・ 室津の神事芸能(山添村)

ほか

十一月二十日(日)

田楽・細男奉納

午後三時頃～ 林檎の庭

田楽の起源については、神に五穀豊穡を祈る楽であるとか、農民を慰労するため演じた所作であるとか、田舞から出たものなど諸説あります。春日田楽は、おん祭が行われた当初から奉納されていま



田楽



細男

す。世阿弥が十二才のとき、おん祭前日の装束賜りの能に田楽の喜阿弥が尉を演じるのをわざわざ見に行つて感服したと「申楽談義」にのべています。

細男

細男の起源は、神功皇后の故事にちなむもので、八幡神系の芸能と考えられています。

白い浄衣を着けた六人の舞人が白い布を目の下に垂らし、うち二人が小鼓を胸から下げ、二人は素手、あとの二人は笛の役。小鼓を打ち、袖で顔を覆いながら進み、また退きして拝舞する素朴なものです。が、独特の雰囲気をも出し出す実に神秘的な舞で、わが国芸能史のうえでも他に遺例のない貴重なものです。

◎「おん祭への招待」参加費一、〇〇〇円(税込) ※事前申込制 ※参加ご希望の方は、住所・氏名・電話番号を明記の上、春日大社へFAXでお申込下さい。(FAX 〇七四二一七二一四) ※当選者にはハガキで連絡。当日の受付は感謝共生の館、十一時三十分から

十一月二十日(日)

上横須賀春日神社(愛知県西尾市) 親子獅子舞奉納

午前十一時～ 林檎の庭(陪観無料)

雄獅子と雌獅子が出会い、子供が生まれ、成長していく姿を親獅子は喜び舞う。町内の家族が皆平和でありますように、子供が親の愛に育まれて元気に成長することを願って舞います。



十一月二十一日(月)

金澤翔子氏 席上揮毫奉納

午後二時〜林檎の庭(陪観無料)

現在三十一歳の翔子さんは昭和六十年東京都目黒区生まれ。五歳からお母様に師事され書を始められました。

ダウン症という知的障害がありながら、二十歳の時の初個展以降毎年多くの個展を開かれる他、大河ドラマ「平清盛」の題字や、国体開会式の揮毫など活動は多岐に渡っています。神仏に崇敬の心の深い翔子さんは、鎌倉建長寺や京都建仁寺、奈良東大寺などのお寺、熊野大社、厳島神社、伊勢神宮などの神社で揮毫・奉納をされています。

春日大社には、翔子さんの書の世界に導いてくれた祖母御奉納の石燈籠があり、今年一月、燈籠を探して、翔子さんとお母様が春日大社を訪ねられました。探し当てた燈籠に手をおいて祖母御奉納、燈籠を仲介してくださいました。お父様に語りかける翔子さんの姿はとても感動的でした。



十一月二十三日(水・祝)

奈良女子大学「飛鳥会」 箏曲奉納

午後三時〜直会殿(陪観無料)

飛鳥会は、お箏や三絃を演奏する部活動で、現在四十名で活動されています。毎年五月にミニコンサート、十月に定期演奏会を、奈良女子大学講堂にて開催されています。今回は、宮城道雄作曲の古曲、リズムの良い現代曲、ポピュラーな映画音楽など、多彩なジャンルの曲を奉納演奏されます。



十一月二十三日(水・祝)

奈良市音声館 音楽奉納

午後四時〜林檎の庭(陪観無料)

奈良市音声館は、無形文化遺産である『わらべうた』を奈良から世界へ発信することを目的に、平成六年に奈良市が設立。管理・運営は一般財団法人奈良市総合財団が行っています。

『わらべうた教室』では、一歳から十九歳代までが『わらべうた』を通して奈良の歴史や文化を知り、ふるさと・奈良への関心を育んでいます。『子ども邦楽教室』では、箏・尺八・三味線の基礎を学び、日本古来から伝わる文化の奥深さを学んでいます。その他、『楽しく！コーラス』、劇団『良弁杉』、『子どもお茶教室』などの活動も行っています。

十一月二十四日(木)・二十五日(金)

奉祝落語会

午後二時開演(午後一時三十分開場)

感謝・共生の館

出演

柳亭市馬、桂米二、桂米紫、桂春蝶、桂紋四郎(演目日替わり)

春日大社で初めて落語の奉祝公演が開催。東西落語界の今をときめく断家による二日間の落語会です。江戸落語の第一人者柳亭市馬師や上方落語界の精鋭により、両日異なる演目をご披露いただきます。



柳亭市馬 桂米二



桂米紫 桂春蝶

◎料金 各日四、八〇〇円(全席指定・税込/記念品付)※九月二日(金)から、KENYSYOインターネットチケットセール、ローソンチケットにて販売
申込み・問合せ先 セクターエイティエイト(電話〇六―六三三三―八九八八)

落語奉納「鹿政談」

十一月二十四日(木) 午後一時〜

林檎の庭

春日大社で初めての落語奉納、しかも春日大社ゆかりの「鹿政談」が桂米二師により奉納されます。本公演チケットをお持ちの方は優先的にご覧いただけます。なお、座席に限りがございますので、ご了承ください。

十一月二十五日(金)

浪速神楽・久米舞 奉納

正午〜林檎の庭(陪観無料)

「雅楽寮 日本雅友会」は昭和三十四年、民間雅楽普及・育成を目的に元宮内庁楽師の指導のもとに活動を開始されました。現宮内庁式部職業部が継承する正統雅楽並びに、歌や舞を神様に奉納して御心を和ませる神事として京阪神で古くから継承されてきた浪速神楽の研究等を通じ、児童や青少年の健全な育成、日本文化の継承と発展に寄与することを目的に活動を続けておられます。今回は、浪速神楽、久米舞が奉納されます。



浪速神楽 演目

鉦の舞 鉦の舞と剣の舞を組み合わせた舞。

大山幸 山幸彦神話に基づく神楽で、巫女が弓矢と鳥籠を持って四方をめぐり、途中で鳥を放ち矢を射ます。

吾妻胡蝶 なにわ神楽の名曲の一つで、舞人は、蝶が遊び戯れているように金銀の扇を巧みに廻しながら舞います。

早神楽 字の如くテンポの速い曲で、巫女が鈴を振りながら繰り返し舞います。

久米舞

舞楽が大陸から伝わる以前より日本で舞われてきた舞は、国風歌舞と呼ばれ、久米舞もその一つです。器楽曲ではなく、久米歌という歌に合わせて舞います。歌は古く、神武天皇の大和国征伐を祝って従者の久米部の者たちが歌ったとされ、大和言葉の歌詞は古事記や日本書紀にも登場します。

十一月二十五日(金)

出羽三山神社

和舞・神楽奉納

午前十時〜林檎の庭(陪観無料)

春日大社の「和舞」「神楽」を今日に伝えることに尽力された方に、富田光美と妻・静子(志津)という先人がいます。富田家は春日大社の社家で、光美は十三代目の当主として幕末より明治にかけて活躍、その最たるものが和舞の復興でした。和舞は延喜年中より祭祀舞として奉仕されましたが、応仁の乱の影響を受け途絶えていきました。しかし、その後も富田家では一子相伝で傳承され、宝暦十二年(一七六二)後桜町天皇御即位の翌十三年、大賞会の御再興と共に和舞も再興、その折、富田家より宮中楽人へ和舞が伝授されました。

春日大社の巫女神楽(社伝神楽)は平安朝より傳承され、舞人を八乙女と呼びました。八乙女の最古の記録は延喜二十年(九二〇)宇多法皇御幸の御、国司であった藤原忠房が詠んだ「めづらしきけふの春日の八乙女を神もうれしと思はざらめや」です。

明治初期以降これらの和舞・神楽は光美夫妻により、伊勢の神宮をはじめ、出羽三山神社・金刀比羅宮・北野天満宮・住吉大社など全国の神社に広く伝えられました。

この度式年造替を奉祝し、出羽三山神社に伝えられた和舞・神楽が春日大社で奉納される運びとなりました。



十一月二十六日(土)

柳生新陰流兵法

宝蔵院流槍術奉納

午前十時〜林檎の庭(陪観無料)

柳生新陰流兵法

新陰流流祖、上泉伊勢守信綱より柳生石舟斎宗厳が一国一人印可状を授かり創まりました。七人の尾張藩藩主と十四人の尾張柳生家当主により伝えられ現在に至ります。なお、遠祖は春日社の社人でもあり、石舟斎はおん祭にも関わっていました。心身ともに「無形の位」を本体とし千変万化する相手を見事に観て、その働きに従って無理なく転変して勝つ「活人剣」を特徴とします。



流祖・胤栄(一五二一—一六〇七)は興福寺の僧。武芸を好み、槍の修練に努め、ついに鎌槍を工夫し、宝蔵院流槍術を創めました。

宝蔵院流槍術

宝蔵院流槍術の槍は、通常の真直ぐな素槍に対し、鎌槍と称する十文字形の穂先に特徴があります。この宝蔵院流鎌槍は攻撃と防御に優れた画期的な武器で全国を風靡し、日本を代表する最大の槍術流派として発展しました。

両流祖が上泉伊勢守信綱師の兄弟弟子であり、興福寺・春日社にご縁の両流の春日大社における演武は特に意義深い奉納となります。



十一月二十五日(金)・二十六日(土)

奉祝バル

正午



御造替を祝い、JR奈良駅および近鉄奈良駅周辺の飲食店等をお得に回ることができる奉祝バルが開催されます。振舞い酒や記念品のプレゼントなどの企画が予定されています。

十一月二十六日(土)

奈良こども伝統文化協会

芸能奉納

午後三時〜林檎の庭(陪観無料)



奈良県内で活動する「伝統文化こども教室」の交流と発表の機会を設け、参加することも達の成長とともに、多くの人々が伝統文化に触れて関心や理解を深め、ふるさとを愛し、尊敬する心が育まれることをめざしています。

参加団体は県内で、こども達に伝統文化を継承する団体で、和太鼓・詩舞・能・狂言・八雲琴・箏曲・尺八・装道衣装・日本舞踊・琉球舞踊・大正琴・茶道・華道等があります。

十一月二十六日(土)・二十七日(日)

奉祝稚児行列

午後一時〜四時

飛火野↓表参道↓幣殿↓御本殿



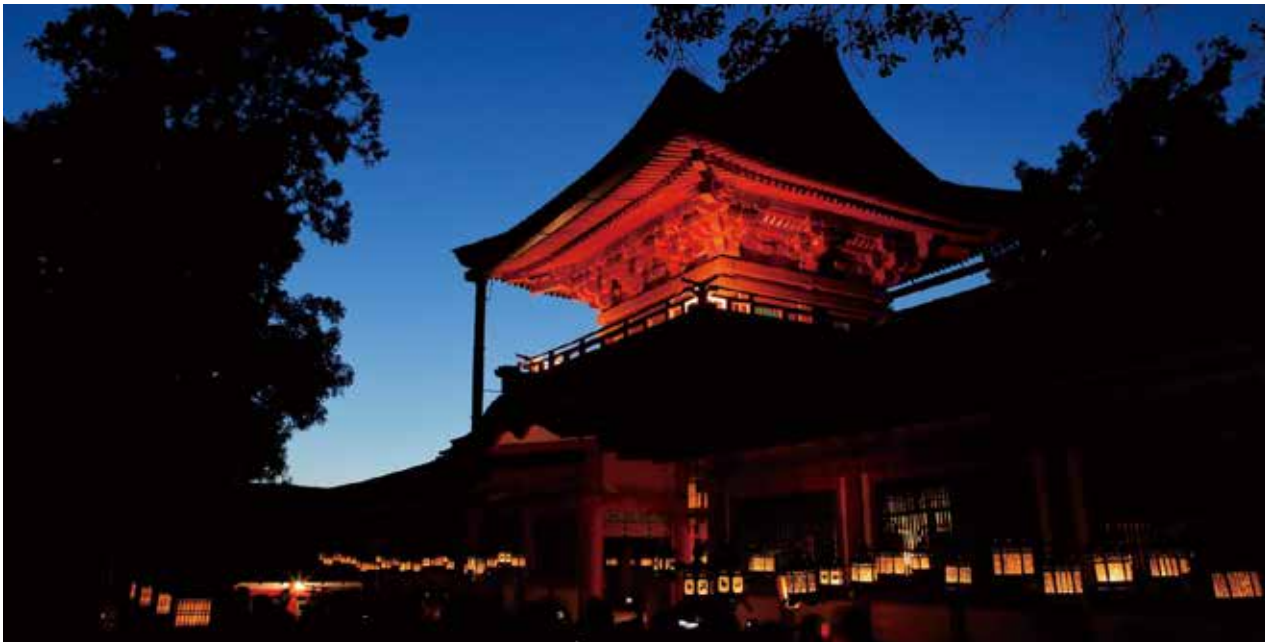
若い世代に御造替を伝える行事として、正遷宮を祝う稚児行列を開催します。子供たちが古式ゆかしき稚児衣装をまとい、神職の前導のもと、飛火野から参道を上り、御本殿にお参りいただきます。

◎参加費 六、〇〇〇円(貸衣装代込、記念品付)

◎参加対象 満三歳〜小学三年

※お子様一名につき、保護者一名の付添が必要(和装またはスーツ)

※雨天中止(前日午後五時までに決定)中止の場合でも、貸衣装代二、〇〇〇円は返金されませんので、ご了承下さい。※申し込み、参加条件の問い合わせは奈良市観光協会へ(電話〇七四二・二七・八八六六)



万燈籠／写真 松井良浩

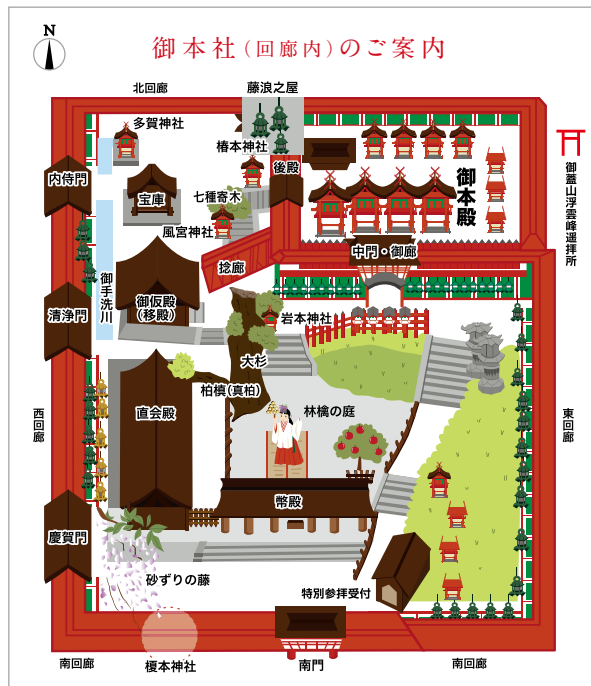
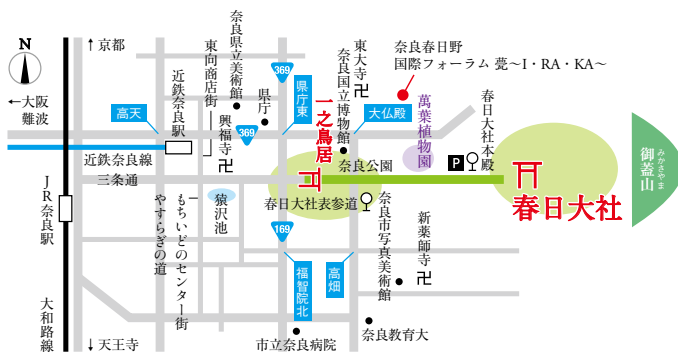
春日大社のご案内

【交通アクセス】

- 近鉄奈良駅、JR奈良駅から奈良交通バスで
 ●春日大社本殿行「春日大社本殿」下車すぐ。
 ●市内循環(外回り)「春日大社表参道」下車、徒歩約10分。
 ※季節によりバスの運行や時間に変更になりますので確認下さい

【開門時間】

- 夏期(4月～9月)／午前6時～午後6時
 冬期(10月～3月)／午前6時30分～午後5時
 ※諸行事の際は変更



式年遷嘗
第六十次
春日大社

春日大社

奈良県奈良市春日野町160 TEL.0742-22-7788 FAX.0742-27-2114
<http://www.kasugataisha.or.jp>

11月正遷宮期間中は大変混雑が予想されます。公共交通機関をご利用下さい。